

神奈川県かもめ三人衆、美濃加茂に散る

神奈川県かもめ三人衆、美濃加茂で奮戦！

10月11日（土）ねんりんピック岐阜 2025 神奈川県選手団は、神奈川県立総合教育センターに集合し、結団式を行った。全23種目が順番に紹介される内、22番手が将棋で、チーム名は“かもめ”と登録されている。神奈川県チームは3人のエントリーだが、お互いの顔を知ったのは最近のことだった。

練習の拠点は相模原にある公民館で、政令都市の“相模原こもれびチーム”と合同練習を数回行った。相模原の顔ぶれを見ると、何かの全国的有名強豪を擁して結成されたチームであった。我々“かもめ”集団は、彼らの様に自由奔放な腕力を持ち合わせてはいない。蛇に睨まれた蛙どころではない。鷲と鷹に追い回されたかもめである。いやしかし、およそ半世紀前に書かれた五木寛之訳の“かもめのジョナサン”はただ翔ぶことを目的としていたが、実は浮遊することにより自由を獲得したかったのだ。いわば、かもめがどう飛躍し鷲と鷹から抜け出すことができるかという、人間でいう悟りを開くことに相通じるものである。とにかく、ねんりんピック当日の団体戦予選を迎えることになる。

前日は、ホテルでプロの竜王戦第三局の模様をスマホで観戦！新聞で検討していたかもめ三人衆の予想手は皆はずれ、プロの手順にただただ感心するばかり。普通、大会前夜ともなれば

練習対局をするところであるが、この中継を見終わってすっかりプロの凄技を見せつけられ、その魅力に酔いしれてそのまま床に就いてしまった。

予選会当日は、団体戦各 4 チームの総当たりで、1 チームが抜け出すことにより翌日本戦の出場資格を得ることができる。練習試合を行った相手の“相模原こもれびチーム”は、初日三連勝土つかずで本線入り。我が“かもめ”は初戦こそ 3 人全勝したが二戦目につまずき、三戦目敗れてしまい、残念！しかし、私事で恐縮だが、二戦目の対戦相手が大阪チームの最年長者（93 歳）とあたり、運よく勝負を制することができた。感想戦も和やかで、たとえこの日敗れたとしても（実際に予選はそうなってしまった）本望に思えた。

翌日の本線、決勝に残ったのは東京チームと京都の東山将棋センターとなる。個人戦は二人が一回戦敗退だが、かもめ三人衆の最年長者（77 歳）が奮戦し、あと一息で三回戦へというところで敗れてしまい内容を鑑みるに痛恨譜となった。

来年の開催地は、埼玉県の蕨市だそう。また行きたいねー（アイワナビー）。